

ひまわりクリニックきょうこく

ひまわり便り 第45号

地域での暮らしを支えるための取り組み 『連携』(れんけい)

人はそれぞれ、年齢や性別、家族構成、所得、暮らしている環境、身体状況等によって、生活の仕方は異なりますし、望む暮らしや困りごととも様々です。ですが、すべての人にその人らしい生活を送る権利があることには変わりはありません。もし突然、その暮らしを妨げる事態が起きたとしたら、まずは自分自身で考え行動し、解決しようとするでしょう。しかしその一方で、個人ではどうにもならないことが起きることもあります。そのような時、家族やその方が大切にしてきた友人・地域の方とのつながり、保健・福祉・医療・介護等のあらゆる資源を活用することで、その人らしい暮らしを再構築することができると考えます。



例えば、お一人暮らしの女性がひまわりクリニックに受診され、
『今の暮らしを続けたい。でも、去年に比べて思うように動けなくなってきたわ。』と、
話されました。具体的にお尋ねしたところ、こんな事が気がかりのようです。
『立ち上がる時にめまいがして転びそうになった。』
『外出が減ってきた。人とお話したい。』
『今年は除雪が難しそうだ。』

このような相談があった時には、心配な事や困っている事をご本人と整理し、どうしたら良いかを一緒に考えます。病気に関する事については、ひまわりクリニックで対応したり必要に応じて専門病院を紹介することができますが、それ以外の生活の面については、多数の方の協力を必要とするときがあります。

医療機関

友人

保健・福祉・介護に携わる方



家族、兄弟、親戚



ご近所さん



その他 地域の身近な方

困りごとの内容によって関わる方は変わってきますが、『この方の望まれる暮らしを支えたい』という共通意識をもった方たちが協力し合うこととなります。誰がどのようなお手伝いをするか相談し合ったり、ご本人の状況を確認するために連絡を取り合ったりします。これが『連携』(れんけい)です。その際、基本的にはご本人の同意を得た上で個人情報を取り扱うこととなります。また、協力者には知り得た情報については関係者以外に漏らすことのないようお願いをします。

今回はクリニックで相談を受けた方の例でしたが、実際には地域の様々な窓口でこのような相談をお受けしています。そして、保健・福祉・医療・介護に携わる者が調整役となって、相談者お一人おひとりの望まれる暮らしを支えるために、日々様々な方と連携しています。